

LUNA の利用実績とお知らせ	1
LUNA 活用事例紹介	2
講習会実施報告	3
2013年度新任教員研修会、FD ワークショップ	4
講演会告知、お知らせ	6

### ＝第5号発行にあたって＝

高等教育推進センターが担っている業務は多岐にわたりますが、教員あるいは学生に提供している授業サポートのうちの多くが、着実に利用者数を伸ばしているようです。LUNA 然り、FD ワークショップ然り。9月に行われた関西 FD 共催事業は、募集定員が埋まるほどの活況をみせました。こうした右肩上がりの傾向が今後さらに続くことを願ってやみません。そうなれば当然、定員の拡大や、企画開催の回数を増やすことが必要になってくるでしょう。このニュースレターの紙面も追加を余儀なくされるのではと想像したりしています。

さて、今号も引き続き、LUNA の活用事例を掲載しましたが、ほかに注目すべき記事として、神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズ見学の話を取り上げています。「学びのテーマパーク」で楽しみながら学んでいる学生たちの姿は、とても印象的でした。その熱気が関西学院全体に波及することを願いつつ、それを後押しするためにセンターに何ができるのか、これから模索していきたいと思っています。

高等教育推進センター副長（高等教育推進センターニュースレター編集長） 北村 昌幸



#### ◆2012年度のLUNAの利用実績は昨年度を上回りました

2012年度の利用実績の集計を行いました（下表）。

LUNA を利用する授業科目の比率は 35.7%、専任教員の利用率は 60.9%、学生の利用率は 89.0%と、すべての項目で 2010年度、2011年度実績を上回ることができました。

指標項目	指標の定義	10年度	11年度	12年度
1 LMSを利用する授業科目の比率	全開講科目数(大学・当該年度)に対するLUNAを利用する科目の比率。(LUNAを利用するとは「お知らせ・教材・掲示板など」に教材や記事が掲載されている科目とする。)	12.2%	34.6%	35.7%
2 LMSを利用する専任教員の比率	全専任教員に対するLUNAを利用する専任教員の比率 (LUNAを利用する専任教員とは「お知らせ・教材・掲示板など」を利用している科目がひとつでもあることとする。)	53.9%	59.4%	60.9%
3 LMSを利用する学生の比率	LUNAIにアクセスした学部学生数÷在籍学生数(学部) (1回でもLUNAのページにアクセスしたらカウントする)	65.8%	85.9%	89.0%

#### ◆新SCORMプレイヤーの適用について

秋学期より、TOEIC対策講座コンテンツは、新しいバージョンのプレイヤーに変更しております。旧プレイヤーでのコンテンツ利用で、記録が残らない・表示がクリアされる現象を解消するために、SCORMプレイヤーを新しいバージョンに適用いたしました。今後も利便性の向上に努めてまいります。

また、LUNA を利用した際、不具合や動作で気になるところがありましたら、LUNA サポート (LUNA-support@ml.kwansei.ac.jp もしくは内線 61+31336) までお問い合わせください。

#### ◆LUNA サポートでは以下のサービスを提供しておりますので、ご利用ください

- ◎電話・メールサポート…電話やメールにてお問い合わせをいただければ、サポートします
- ◎出張サポート……………研究室に直接訪問し、サポートします。個人、複数いづれでも対応します
- ◎来室サポート……………高等教育推進センター事務室へご来室いただければ、その場でサポートします
- ◎学生向け説明会……………先生に代わってLUNA の操作方法のオリエンテーションをおこないます
- ◎ハンドブック……………教員向け・学生向けがそれぞれあります
- ◎LUNA サポート……………LUNA 内に詳細なマニュアルを掲示しております

## ◆社会学部の取り組みについて森康俊先生にお聞きしました

- ◇ 2013 年度より LUNA による課題レポート提出を義務づけた科目  
⇒【初年次演習科目】基礎演習 全 43 クラス 【クラス人数】17 人
- ◇ 今年度より LUNA による課題提出をルール化したのは、なぜですか？  
⇒ 今後、他大学のように卒業論文などを電子データで提出・管理していくためのステップとして、1 年生の段階からレポートを LUNA でやり取りすることを学んでもらうため。
- ◇ 春学期を終えて、基礎演習で LUNA に関して問題がありましたか？  
⇒ 最終レポート提出までに、履修者と教授者間でレポートのやり取りを行っていたので、提出に関して、特に問題は発生しなかった。



## ◆今年度より基礎演習（1 回生）全 43 クラスで、LUNA での課題レポート提出をしています

- 学生が初めて書くレポートになるので、しっかりとスキルを指導したい。  
⇒ Word の校正機能を使い、添削したレポートを LUNA で返却するやり取りを 2～3 回程度行う。
- オンラインで提出させることで、締切厳守を徹底させた。  
⇒ 自分が確かに提出できたことを確認する機能についても指導するようにした。

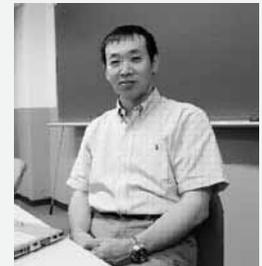
## ◆提出された課題レポートへの評価シート（基礎演習レポート講評）も LUNA で返却可能に！

## 【取り組みで良かった点】

- 学生と教員間での電子データのやり取りに対して、基礎演習のクラス規模が 17 人なので、個別に指導しやすい。
- 新入生は、基礎演習で LUNA の操作を習得することになり、他の履修科目で LUNA を利用している授業にも適応しやすくなった。

## ◆工学部 氏木道人先生の活用例◆

- ◇ LUNA を使っている科目  
⇒ 科学技術英語、英語リーディング I  
【クラス規模】25～30 名 【授業形態】外国語 【配布物】量は普通
- ◇ LUNA を使用するようになったきっかけは何ですか？  
⇒ 英語教育においては Moodle のような e ラーニング向けのパッケージソフトをよく利用するので自分も使おうと思っていたところ、LUNA が導入されたためそちらを利用することにしました



## ◆一回の授業に必要な教材と課題を一つのレッスンフォルダにまとめています

①-1 英文記事の URL を授業の一週間前に掲載（学習時に学生が書き込みを行えるように紙ベースでも配布している）

①-2 記事に関する問題（ワークシート）を添付

② ①-1 の記事の第一段落をシャドウイングの題材としてアップロード（聞き取りが難しいところを赤字にしている）

②のコンテンツを見ながら  
③の音声聞くことができ、シャドウイングの練習ができるユニット

③ コンテンツの下にシャドウイングの音声をアップロード

④ ①-2 の問題（ワークシート）の答えをアップロード（表示期間を設定している）

⑤ 課題レポートはグループ(\*)で取り組ませている（表示期間を設定している）

学生が科目にアクセスしてレッスンフォルダを開けば、流れ通りに学習できるようになっている

(\*)グループ機能を使用して学生を 4～5 名ずつのグループに分けています

## ◆司法研究科での活用事例◆

- ◇ LUNA を使っているコミュニティ
  - ⇒ ロースクール学習支援コミュニティ
- ◇ LUNA で具体的にどのように活用していますか？
  - ⇒ 定期試験過去問題の掲載
  - ⇒ 司法試験に関する冊子や、キャリアガイダンス講演会資料の掲載



## ◆学生の利便性向上と授業外学修の支援を目的にコミュニティを活用しています

## 【LUNA を活用する前の問題点】

- 定期試験過去問題のファイルを学生に貸し出していた。
  - ➡ 定期試験前は、貸し出しが集中し、返却待ちが発生してしまう。  
貸し出し中に、ページが紛失してしまう。
- 司法試験合格者体験談などの冊子や講演会資料を履修学生部数作成していた。
  - ➡ 取りに来ない学生がいて、残部が発生する。

## 【LUNA を活用後】

- コミュニティに教材として、定期試験過去問題を掲載して、いつでも学生が学べる環境を提供。
- 貸し出し過去問題ファイルの管理業務は省かれる。
- 司法試験に関する冊子や講演会資料を掲載し、希望者のみ冊子や資料を配布することにしたので、紙で作成する部数が大幅に減少。

## 講演会・ワークショップの開催

## FDに関する講演会—2013年度新任教員研修会

## &lt;概要&gt;

開催日時：2013年4月13日（土）11:00～12:00

講演：寺地 孝之氏（教務部長）

村田 治氏（高等教育推進センター長）

新任教員研修会において、寺地教務部長より「本学における教育の現状と課題」、村田高等教育推進センター長より「本学におけるFDの取り組み」について講演をいただきました。

寺地教務部長からは本学が取り組んでいる教務上の施策として、「教育課程の順次性・体系化」や「シラバス」、「GPA・成績評価」や「教育改善等の推進に関する基本方針」について、これらの取組の内容やその課題について説明がありました。村田高等教育推進センター長からは、前年度に実施された『学生による「授業に関する調査」』の結果報告書をもとに、本学におけるFD活動は、教員個人のFD活動を推進するだけでなく、科目提供部署単位でのFD活動や全学的なFD活動を推進していることについての説明がありました。

本学における「教育の現状と課題」と「FDの取り組み」という非常に実践的なテーマであったため、約1時間の講演はとても短く感じました。講演終了後に実施したアンケートからも、「FDの目的は教員の評価ではなく、講義の改善のためであることを理解できた。一回目の講義に役に立ちそうだ」、「具体的なノウハウが非常にためになった」、「実際の授業に即した内容で、大変参考になりました」等、前向きな意見が多く寄せられ、FDについて更なる意欲を感じさせる非常に有益な講演会でした。



FD ワークショップ「教員のための PDF 活用セミナー  
～教務・校務に生きる Acrobat の使いこなしをご紹介～

<概要>

開催日時：2013年7月3日(水) 17:00～18:20

講演：吉崎 誠多氏・伊戸川 覚氏 (アドビ システムズ 株式会社)

教務機構高等教育推進センターと情報環境機構の共催で開催し、本学の教員を中心に33名の参加者がありました。

Adobe Acrobatの基本から応用まで、単なる操作説明ではなく、実際の利用を想定して、教材、学術論文、学会発表資料など教務・校務に生きる使いこなし方法について講習を行いました。



- PDFで届いた学会参加書をそのまま入力して返信する (PDFファイルのテキストや画像を編集)
- 過去の資料や文献を電子化して引用する (紙の文書をスキャンして検索可能なPDFに変換)
- 原本が残っていないPDFファイルを復活させる  
(PDFを編集可能なWord、Excel、PowerPointに変換)
- 文書のセキュリティや学生のコピー対策を考える (パスワードとアクセス権の適用)
- 様々な文書を含むレポートをひとつにまとめる (ファイルを結合、ポートフォリオに整理)
- 簡単に部外秘の機密文書を作成する (アクションウィザード機能)
- 学会のアンケートをメール送信して簡単に集計する (FormsCentral機能)

参加者からは、「参考になった。ソフトを購入しなければと思ったが、最後にサイトライセンスがありすぐに活用できるアナウンスがあったのもよかった。」「PDFに書き込める？そんなのあり？？加工できないのがPDFじゃないの？？？と思っていたのですが、今日は新たなPDFの魅力にひきこまれた90分でした。」「授業の準備や研究をするにあたって、とても便利で時間の節約にもなる方法を教えていただき、有意義なセミナーでした。画期的なことばかりで、驚きの連続でした。」など好評をいただきました。今後も高等教育推進センターでは、FD関連のワークショップを開催する予定です。

FDワークショップ 大学教員のための「講義方法のブラッシュアップ」

<概要>

開催日時：2013年9月9日(月)～10日(火)

講演：倉茂好匡氏 (滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長)

このワークショップは「関西地区FD連絡協議会初任教員向けプログラム」として、共催をいただいています。本ワークショップは、専任教員・非常勤講師及び大学で講義担当を目指す大学院生等を対象としたもので、1日目のみ参加、2日間連続参加の選択が可能で、発声、板書、立ち位置といった基本的なことから、授業構成、発問、教材研究といった内容について実習を交えて、「講義方法のブラッシュアップ」を行うことを目的としています。

参加者数は、初日が30名(関西学院大学から22名、関西地区FD連絡協議会加盟校から8名)、2日目が21名(関西学院大学から15名、関西地区FD連絡協議会加盟校から6名)でした。

9月9日(月)

講義「基本の基本」

講義「授業展開で陥りやすい罠」

ワークショップ「教材研究」

9月10日(火)

講義「発問法、アクティブラーニング法」

グループワーク「授業の完成」

授業発表会



なお、ワークショップ終了後にアンケートを実施したところ、関西地区 FD 連絡協議会加盟校からの参加者を含め、主な意見は以下のとおりでした。

- 教材の見せ方、資料の見せ方が勉強になりました。
- もっと早くこのレクチャーを受けておくべきだと思った。
- チョークの持ち方や立ち方など基本的なことから教えていただき、ヒントをいただきました。
- 発問のポイントやアクティブラーニングのポイントが参考になった。
- 学生に資料を読ませる工夫や課題の出し方が参考になった。また、グループワークを行うことで、ほかの大学の学生の様子や先生方から話を聞くことができてよかった。

アカデミックコモンズ シンポジウム & 高等教育推進センター第 4 回 FD 講演会  
「アカデミックコモンズから始まる学びの再発見」 & アカデミックコモンズ 見学ツアー

<概要>

開催日時：2013 年 10 月 2 日（水） 16:30～18:30

基調講演：「新たな学びの空間 ラーニングコモンズ」

山田 政寛氏（九州大学基幹教育院 准教授）

講演：「関西学院大学のアカデミックコモンズから始まる学びの再発見」

巳波 弘佳氏（関西学院大学理工学部 教授・アカデミックコモンズ活性化委員会コンビーナー）

事例紹介：「学部・学年を超えた参加型ディスカッションアクティビティ」

瀨田 紗月さん（関西学院大学総合政策学部 3 年生）

「アカデミックコモンズの魅力を伝える P V 作成」

川端 奈津子さん（関西学院大学理工学部 1 年生）

アカデミックコモンズ活性化委員会と教務機構高等教育推進センターで、講演、学生からの事例紹介と 2013 年 4 月に神戸三田キャンパスに開館したアカデミックコモンズの施設見学会を行いました。

参加者数は、学内の教職員、他大学からの参加もあり、定員を超える 44 名でした。



(見学ツアー)



(基調講演の様子)

プログラム終了後にアンケートを実施したところ、参加者から以下の意見がありました。

- 学生・教職員の熱意のある活動が印象的だった。
- 内容が豊富で楽しむことができた。
- アカデミックコモンズの見学をさせていただく良い機会になりました。コモンズでの活動、使い方を知る良い機会になりました。
- 基調講演の内容が新しい情報と刺激が多くあり、良かった。
- コモンズができて半年、改めてコモンズの役割についてうかがうことができ、大変参考になった。
- 学生のプレゼンは本当にリアリティがあり、メッセージ性の強いものでよかった。

## お知らせ

## 2013年度「学生による授業に関する調査」について

本学では、2005年度から統一的な方式で、全学的に学生による「授業に関する調査」を実施しています。2013年度春学期の実施率（マークシート方式）は99.0%(2012年度春学期98.1%)であり、多くの先生方のご協力によりほぼ全ての授業で実施されました。

また、昨年度より実施しましたWebによる調査方式は、認知度の向上に伴い、Webの対象科目のうち学生からの回答があった科目は全体の54.0%(2012年度春学期36.1%)に達しました。

本調査の目的は寄せられた評価や意見をもとに、授業担当者が次年度以降の授業内容や授業方法の改善に取り組むことや、授業環境について組織的な改善に結びつけることです。（各学部・センターのFD活動の一例は高等教育推進センターホームページの「各学部のFD活動」をご覧ください。）

秋学期も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◇「学生による授業に関する調査」（秋学期）

<マークシート方式実施日>

2013年12月6日（金）～12日（木）[予備日：12月13日（金）～19日（木）]

<Web方式実施日>

2013年12月6日（金）～2014年1月9日（木）

※実施要領・実施科目などの詳細につきましては、11月中旬に各授業担当者宛にご連絡いたします。

## 第3回SD講演会の開催について

◇講師：原 邦夫 氏（財団法人国際医学情報センター常務理事・事務局長、大学行政管理学会元会長）

◇日時：2013年11月22日（金）17:00～19:00（受付16:40～）

◇テーマ：大学職員を振り返って

—慶応義塾の経営改革と私の取り組んだ業務・伝えたいこと—

◇場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

大学図書館地下1階 図書館ホール

◇対象：大学職員の未来や人材育成に関心のある大学・短期大学の教職員

◇申し込み方法

HighEdu-FD@kwansei.ac.jp へ、件名を「第3回SD講演会参加申込」として、以下の内容を明記の上お申し込み下さい。（11月15日（金）締切）

①名前 ②所属 ③連絡先（E-mailアドレス）

※個人情報は厳重に管理し、本講演会の運営管理のためにのみ利用いたします。

◇問い合わせ先

関西学院大学 教務機構高等教育推進センター（担当：永井） TEL：0798-54-7420



## 高等教育推進センターニュースレター

2013年11月1日

発行：関西学院大学教務機構高等教育推進センター

TEL：0798-54-7420 FAX：0798-54-7421

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

<http://www.kwansei.ac.jp/cephe/index.html>

ご意見、ご感想、情報等をお寄せ下さい。寄稿も歓迎致します。✉ [HighEdu@kwansei.ac.jp](mailto:HighEdu@kwansei.ac.jp)